

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大妻女子大学短期大学部
設置者名	学校法人大妻学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
短期大学部	家政科	夜・通信	7	0	0	7	7	
	国文科	夜・通信			0	7	7	
	英文科	夜・通信			0	7	7	
(備考)他にも該当する教員・授業はありますが、今年度は詳細確認ができていない全学共通科目のみ計上しています。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/guide/syllabus">http://www.otsuma.ac.jp/academics/guide/syllabus</a>
---

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

## 様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大妻女子大学短期大学部
設置者名	学校法人大妻学院

### 1. 理事（役員）名簿の公表方法

<http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/cooperate>

### 2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社役員	2017.6.1 ～ 2021.5.31	ガバナンス改革
非常勤	株式会社役員	2019.6.1 ～ 2023.5.31	ガバナンス改革
(備考) 学外者である理事を3名以上配置しているが、上記では一部を記載。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大妻女子大学短期大学部
設置者名	学校法人大妻学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>本学の授業計画(シラバス)には「単位数」や「授業形態・方法」等の基本事項以外に、「授業の概要、ねらい」「到達目標」「授業内容とスケジュール」「授業時間外の学習(予習・復習等)」「成績評価の方法及び基準」「教科書・参考書」「質問等の受付」を記載項目としている。</p> <p>記載内容については作成依頼時に各授業担当者へ作成時の留意事項等を配付し、例えば「到達目標」の項目については、「この科目を履修し、学修目的を達成できた結果、学生がどのような知識・能力などを修得できるのか(何ができるようになるのか)、学生が主体となる文章で記載してください。」と学生が理解しやすい具体的な記載内容にするよう指示している。</p> <p>作成は、例年前年度の11月に大学から授業担当者へ作成依頼し、1月上旬を作成期限としている。その後チェックを経て、学生の新年度履修登録が行われる前の3月下旬にWeb上で公開している。</p>	
授業計画書の公表方法	<a href="https://unipa.otsuma.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp">https://unipa.otsuma.ac.jp/up/faces/login/Com00505A.jsp</a>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>各授業担当者が授業計画(シラバス)の「成績評価の方法及び基準」に記載した方法・基準より算出した点数を、判定基準(100~90点:S(基本的な目標を十分に達成し、きわめて優秀な成果をおさめている)、89~80点:A(基本的な目標を十分に達成している)、79~70点:B(基本的な目標を達成している)、69~60点:C(基本的な目標を最低限度達成している)、59点以下:D(不合格、基本的な目標を達成していないので再履修が必要である)、出席回数不足:E(再履修)、試験時欠席等:F)、に照らし合わせ、成績評価・単位認定を行っている。</p> <p>また、成績評価が適正であるかの確認手段の1つとして、成績評価確認制度を設け、学生が付与された成績について疑義を感じた際に確認申請をすることにより、授業担当教員から成績評価についての説明を受けられる機会を設けている。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)          本学では成績評価における客観的な指標としてGPA制度を実施しており、その算出方法は学生に配付するとともにWeb上でも公開されている「履修ガイド」に掲載している。具体的な算出方法は以下の通り。</p> <p><math display="block">\frac{(S \text{ の単位数} \times 4.0 + A \text{ の単位数} \times 3.0 + B \text{ の単位数} \times 2.0 + C \text{ の単位数} \times 1.0)}{\text{総履修登録単位数 (不合格 D、再履修 E、試験時欠席 F を含む)}}</math></p> <p>GPAは教務システムにより自動的に算出され、教務委員等を通じて分布状況等を把握できる仕組みになっている。          また成績評価にあたっては、全学的に「大妻女子大学成績評価に関するガイドライン」を定め、適切な実施体制の構築を図っている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p><a href="http://www.otsuma.ac.jp/pdf/academics/guide/subjectguide/junior-2019.pdf">http://www.otsuma.ac.jp/pdf/academics/guide/subjectguide/junior-2019.pdf</a> (履修ガイド p.64)</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)          短期大学部全体・学科単位で「卒業の認定に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)」を定め、ホームページ等で公表しており、例えば短期大学部全体単位では以下のように定めている。</p> <p>「大妻女子大学短期大学部では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間生活全般、日本文化そして英米を中心とした世界の文化に関して幅広い高度な知識を身につけている。</li> <li>2. 常に問題意識を持って自らテーマを見つけ、社会人・家庭人としての的確に判断し問題解決を図ることができる思考力を備えている。</li> <li>3. 大妻で育まれた精神、すなわち周囲の人たちの意見に素直に耳を傾けると同時に、自分の意見を意欲的に主張できる関係的自立を備えている。</li> <li>4. 資格取得に必要とされる学力、諸資格試験等においてすぐれた成績を修めうる技能を身につけている。」</li> </ol> <p>「卒業の認定に関する方針」に定められた能力等を育成するために必要な教育の方針として「教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)」を定め、それに基づき開講している各授業科目を学生が履修、単位修得することで、「卒業の認定に関する方針」に定めた能力等を修得できる教育体制を構築している。</p> <p>また、卒業の要件は学科・専攻毎に定められ、学生に配付するとともにWeb上でも公開されている「履修ガイド」に掲載している。卒業要件として定められている修得単位数は、その合計のみならず、専門科目・全学共通科目 (教養系科目) 別、さらには学修分野別に要件を定め、「卒業の認定に関する方針」に定めた能力修得を適切に行える教育課程を編成している。</p> <p>卒業判定は、学科・専攻毎に定められた卒業要件に基づき、教務委員会、教授会で慎重に審議し、適切に判定される体制を整えている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p><a href="http://www.otsuma.ac.jp/about/intro/diploma">http://www.otsuma.ac.jp/about/intro/diploma</a></p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大妻女子大学短期大学部
設置者名	学校法人大妻学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	<a href="http://www.otsuma.jp/information/financial">http://www.otsuma.jp/information/financial</a>
収支計算書又は損益計算書	<a href="http://www.otsuma.jp/information/financial">http://www.otsuma.jp/information/financial</a>
財産目録	<a href="http://www.otsuma.jp/information/financial">http://www.otsuma.jp/information/financial</a>
事業報告書	<a href="http://www.otsuma.jp/information/financial">http://www.otsuma.jp/information/financial</a>
監事による監査報告(書)	<a href="http://www.otsuma.jp/information/financial">http://www.otsuma.jp/information/financial</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 事業計画書 対象年度: 2019 )
公表方法: <a href="http://www.otsuma.jp/information/financial">http://www.otsuma.jp/information/financial</a>
中長期計画(名称: 対象年度: )
公表方法:

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: <a href="http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/result2014">http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/result2014</a>
---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: <a href="http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/result2014">http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/result2014</a>
---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 家政科
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> )
(概要) [家政専攻] 家政学の基本の衣・食・住生活・保育などを中心に、人間生活全般にかかわる実践的知識・教養・技術力を身につけ、社会の発展に貢献できる人材を育成する。  [生活総合ビジネス専攻] 家政学の基本を学ぶことによって教養豊かな生活人として成長するとともに、現代社会の仕組みを理解し、身につけた情報処理能力・ビジネススキルによって企業人として即戦力となる人材を育成する。  [食物栄養専攻] 「食」と「健康」に関わる知識と技術を総合的に身につけ、健康づくりに貢献できる専門的知識を持った栄養士を養成する。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> )
(概要) 家政科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。  [家政専攻] 1. 幅広い知識・教養および専門的知識・技術力を身につけ、社会人・家庭人としての的確に判断し積極的に行動できる能力を備えている。 2. 専門的知識と技術力を身につけ、社会に貢献できる能力および生涯学び続ける意欲と習慣を身につけている。 3. 大妻で育んだ豊かな教養と知性に基づいた生活マナーを身につけ、他者との良好な関係のもとに自立できる能力を備えている。 4. 資格取得に向けて必要とされる学力を身につけている。  [生活総合ビジネス専攻] 1. 幅広い知識・教養を身につけ、企業人・生活人としての的確に判断し積極的に行動できる能力を備えている。 2. ビジネス分野における専門的知識と技術力を身につけ、即戦力となり得る能力を備えている。 3. 生活マナーとビジネスマナーを身につけ、他者と良好な関係のもとに社会人として自立できる能力を備えている。 4. コミュニケーション力、論理的思考力、プレゼンテーション力などの社会人基礎力と生涯学び続ける意欲と習慣を身につけている。 5. 資格取得に向けて必要とされる実践的な学力を身につけている。  [食物栄養専攻] 1. 幅広い知識・教養および専門的知識・技術力を身につけ、社会人・家庭人としての的確に判断し積極的に行動できる能力を身につけている。 2. 大妻で育んだ精神のもとに、生涯学び続ける意欲と習慣を備えている。 3. 栄養士として、専門的知識・技術を活かして健康づくりに貢献できる能力を身につけ

ている。

4. 食の専門家として、他者との良好な関係のもとに自立できる能力。
5. 栄養士の資格取得に必要なとされる学力を身につけている。

#### 教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：<http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun>)

##### (概要)

家政科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。

##### [家政専攻]

#### 1. 教育内容

生活の基盤である衣・食・住生活、保育、健康、人間関係、環境などの人間生活全般について教育する。

#### 2. 教育方法

- (1) 現代社会に即応できる幅広い知識や専門的・実践的知識および技術や応用力を、講義、実験、実習、演習などにより、身につけさせる。
- (2) 教養を高めるとともに、生活マナーの実践を通して、知性豊かな大妻の気質を育むことができる人材を育てる。
- (3) 資格取得に向けて必要とされる学力を、身につけさせる。

#### 3. 学修成果の評価法

- (1) 定期試験、レポート、作品提出、課題発表、実技試験等で、学修成果の評価を行う。
- (2) 自分が希望した、資格取得による評価を行う。

##### [生活総合ビジネス専攻]

#### 1. 教育内容

- (1) 全学共通科目では、教養豊かな生活人としての成長に必要な知識と能力を身につける。
- (2) 家政基礎科目では、家政学の基礎を学ぶことによって、生活人として必要な知識と能力を身につける。
- (3) 専攻の専門科目では、情報処理能力・ビジネススキルを身につけると同時に、現代社会の仕組みを理解し、身につけた能力を活用できる人材を育成する。

#### 2. 教育方法

- (1) 主体的な学びを促進するために、専門科目では実習や演習などを多く取り入れた教育方法を採用している。
- (2) 1学年では、通期を通して教養ゼミナールを開き、ビジネス人としての基礎知識と能力の向上を図る。
- (3) また1学年では、学外での企業体験（インターンシップ）の機会を設け、幅広い知識と体験を得ることを推奨している。
- (4) 2学年では、各自テーマを設定しての卒業研究に取り組むことによって、論理的な構成能力とプレゼンテーション能力の向上を図る。

#### 3. 学修成果の評価法

- (1) 専門科目については、学修の成果を確認するため、学外の検定を受検することで、より客観的な成果を確認している。
- (2) インターンシップの成果は、終了後に企業からの評価と学生全員を対象とした報告会によって行う。
- (3) 2年間の総括的な学修成果として卒業研究製作を評価し、卒業研究プレゼンテーションを学生全員および専攻の教員全員により評価を実施している。

##### [食物栄養専攻]

#### 1. 教育内容

- (1) 栄養士として必要な専門的知識や技術を理解していくために、厚生労働省が定めた

科目を基礎から応用へと体系的に修得する。

- (2) 栄養士として修得した専門的知識や能力を活かし、地域社会においてコミュニケーションと実践力で健康づくりに貢献できる人材を育成する。

## 2. 教育方法

- (1) 講義では、栄養士課程の基礎科目から応用科目まで正しく理解するために、單元ごとに理解度を確認しながら授業を進める。
- (2) 実験実習では、各分野で修得した知識・理論をもとに問題点を探り、コミュニケーションを取りながら、栄養士として適切な思考力と判断力を身につける。
- (3) 校外実習では、他者との協力のもとに作業を行い、現場の指導者から助言をいただきながら実習内容を深める。

## 3. 学修成果の評価法

- (1) 定期試験、レポート、課題発表、実技試験等による評価。
- (2) 校外実習における学外指導者の評価。
- (3) 全国栄養士養成施設協会主催の栄養士実力認定試験による評価。

## 入学者の受入れに関する方針

(公表方法：<http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun>)

### (概要)

家政科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲をそなえた人を求めます。

### 家政専攻

#### 1. 知識・理解

高等学校で「国語」「英語」「数学」「地理歴史」「理科」「家庭」などの基礎学力を身につけている。

#### 2. 思考・判断

(1) 社会の動きに対する自分の意見をまとめ、わからない文言などを調べる習慣をつけている。

(2) よく考えて自立して行動し、なお誠実で思いやりがある。

#### 3. 関心・意欲・態度

(1) 生活の基盤である衣・食・住生活、保育、健康、人間関係、環境などに関心がある。

(2) 将来どのような生活を創り上げていくかに関心がある。

(3) 社会の動きや日々の生活に興味と関心を示す意欲がある。

#### 4. 技能・表現

(1) 体験や実学を重視し、専門的・実践的技術、知識、応用力を身につけたい。

(2) 豊かな教養と知性に基づく生活マナーを身につけたい。

### 生活総合ビジネス専攻

#### 1. 知識・理解

(1) 高校時代の学習で、文章の読解・レポート作成などの「国語」の能力がある。

(2) ビジネスを学ぶ上で必要とされる社会の出来事や仕組みに関する興味と「地理」「政治・経済」の知識がある。

(3) 基礎的な「数学」の能力、「英語」の基本能力がある。

#### 2. 思考・判断

物事を多面的かつ論理的に考えることができる。

#### 3. 関心・意欲・態度

(1) 社会で自分の能力を発揮することに強い関心があり、積極的に考えて行動できる。

(2) 生活人として、また、企業人として自立した将来を真剣に考えている。

(3) 他者とのコミュニケーションを前向きに図り、良好な人間関係を築こうとする。

#### 4. 技能・表現

自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。

食物栄養専攻

1. 知識・理解

- (1) 高等学校で学ぶ化学・生物が十分に理解できている。
- (2) 実務的な計算能力がある。
- (3) 聞く・話す・読む・書くというコミュニケーション能力の基礎的な内容を身につけている。

2. 思考・判断

身近な社会問題について、知識や情報を基に筋道を立てて考え、説明することができる。

3. 関心・意欲・態度

- (1) 健康や栄養に関心が深く、人のために力を尽くすことに意欲がある。
- (2) 公的・私的な活動に対して積極的に取り組み、最後まであきらめずにやり通すことができる。

4. 技能・表現

高校生活で何かをやり通したことがある。

学部等名 国文科
教育研究上の目的（公表方法： <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> ）
<p>（概要）</p> <p>現代を生きる上で必要な情報を自分の力で獲得し、確かな日本語能力を身につけるとともに、人間性豊かな社会人として国際化する現代社会で活躍できる人材を育成する。</p>
卒業の認定に関する方針 （公表方法： <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> ）
<p>（概要）</p> <p>国文科では、以下の要件や能力を身につけ所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本文化・日本文学・日本語に深い関心を持ち、広範な知識と教養を身につけている。</li> <li>2. 周囲の人たちとコミュニケーションを取りつつ、積極的に社会に参画し貢献できる能力を備えている。</li> <li>3. 日本文化・日本文学・日本語に関する自らの問題意識を表現した卒業論文を作成し提出する力を備えている。</li> <li>4. 編入学等さらなる学びに必要な応用的学力や、図書館司書等の資格を取得することができる実践的学力を身につけている。</li> </ol>
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> ）
<p>（概要）</p> <p>国文科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 全学共通科目の学修を通じて、広やかな教養を身につけると同時に、人間性豊かな社会人としての能力を養成します。</li> <li>(2) 「日本語の基礎」「日本語の発生と展開」「現代の日本語」を学ぶことにより日本語を正しく理解し表現力を高めるとともに、「日本語の文章表現」「日本語の口頭表現」におけるアクティブ・ラーニングによって、積極性・主体性・協調性を醸成します。</li> <li>(3) 「日本文学の歴史」「文化批評」「日本文学を読む」などの学修により、日本文学についての理解を深めつつ、高度な読解力や論理的な思考力を培います。</li> <li>(4) 「日本文学・文化講義」「地域からみた文化」「文学・文化歴史踏査」「ジェンダーからみた文化」などの学修を通じて、日本文化への造詣を深めるとともに、世界の文化を理解する幅広い視野を育成します。</li> </ol> </li> <li>2. 教育方法 <p>上記（1）及び（3）では講義を中心として知識を体得させ、上記（2）及び（4）では演習を中心として実践的な応用力を身に付けさせます。</p> </li> <li>3. 学修成果の評価法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 上記（1）及び（3）では各期末の定期試験やレポート、授業時間内の小テストで、上記（2）及び（4）ではそれに加えて個別口頭発表により評価します。</li> <li>(2) 2年次の「卒業論文」では、2年間の学修成果を生かして作成した論文について口頭試問により評価します。</li> </ol> </li> </ol>
入学者の受入れに関する方針 （公表方法： <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> ）

(概要)

国文科では、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）及び教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識や意欲をそなえた人を求めます。

1. 知識・理解

日本の言語と文学・文化に幅広く関心を持っている人。

2. 思考・判断

自分が生きている時代や、日本や世界の社会について積極的に知りたいと思っている人。

3. 関心・意欲・態度

社会に出る前の2年間で、真剣に自分の将来について考え、自分を一步でも向上させたいと思っている人。

4. 技能・表現

自分の考えを会話や文章で的確に表現したいと思っている人。

学部等名 英文科
教育研究上の目的 (公表方法 : <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> )
<p>(概要)</p> <p>英語による表現能力を高め、英米を始めとした世界の文化に深い関心を持って日本の将来を考え、自分の主張を組み立て、それを英語を通して、21世紀の世界に向かって発信していける人材を育成する。</p>
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> )
<p>(概要)</p> <p>英文科では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 英米を中心とした世界の文化に関して幅広く高度な知識を身につけている。</li> <li>2. 常に問題意識を持ち、自らテーマを見つけ問題解決を図り、卒業研究においてはすぐれた思考力と判断力を示している。</li> <li>3. プレゼンテーションおよびグループ・ディスカッション等において主体的な役割を果たし、他人の意見に耳を傾けると同時に自分の意見も主張できる関係的自立を備えている。</li> <li>4. 英語力に関して、諸資格試験においてすぐれた成績を修めうる技能を身につけている。</li> </ol>
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> )
<p>(概要)</p> <p>英文科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)に掲げた目標を達成するために、次のような教育を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育内容 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 英語の基礎力(聴く、話す、読む、書く)を短期間で向上させます。</li> <li>(2) 英米を中心とした世界の文化に関する幅広く高度な知識を身につけさせます。</li> <li>(3) 現代の世界情勢や経済の動向について最新の情報を身につけさせます。</li> </ol> </li> <li>2. 教育方法 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 上の(1)に関しては外国人教師を含めた少人数制の習熟度別クラスで授業を行います。</li> <li>(2) 上の(2)、(3)についてはレクチャー(講義)、セミナー(少人数制)、卒業研究(論文執筆)へと段階を踏むことによって専門性を高め、かつアクティブ・ラーニングによって学修成果の定着を図ります。</li> </ol> </li> <li>3. 学修成果の評価法 <p>通常の評価方法(定期試験、レポート)に加え、GPA、年1回行われるTOEIC® IPテスト、卒業研究によってより包括的に評価を行います。</p> </li> </ol>
入学者の受入れに関する方針 (公表方法 : <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun">http://www.otsuma.ac.jp/academics/junior/jun</a> )
<p>(概要)</p> <p>英文科では、卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲をそなえた人を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 知識・理解 <p>英米を中心とした世界の文化・歴史に関して基本的な知識をそなえた人。</p> </li> </ol>

2. 思考・判断

常に問題意識を持って、自ら見つけたテーマを論理的に考え、「自分の言葉」でまとめることができる人。

3. 関心・意欲・態度

多様な人々の意見に耳を傾けると同時に、自分の意見も積極的に伝えることによって、自分を高めていきたいという意欲を持った人。

4. 技能・表現

英文科の授業が理解できる一定以上の英語の能力、特にリーディングの力を持った人。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/education>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
家政科		14人	3人	2人	0人	11人	30人
国文科		3人	2人	0人	0人	0人	5人
英文科		3人	1人	1人	0人	0人	5人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
3人		61人					64人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： <a href="http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/teacher_search/teacher/">http://www.gakuin.otsuma.ac.jp/teacher_search/teacher/</a>					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
各学科におけるFD活動に加え、副学長を委員長とした全学的なファカルティ・ディベロップメント委員会を設置し、授業アンケートやFD研修会の実施等を通して、本学の教育内容及び方法の検討、組織的な研修及び改善を推進している。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
家政科	270人	286人	105.9%	540人	587人	108.7%	0人	0人
国文科	40人	58人	145.0%	80人	103人	128.8%	0人	0人
英文科	40人	50人	125.0%	80人	103人	128.8%	0人	0人
合計	350人	394人	112.6%	700人	793人	113.3%	0人	0人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
家政科	270人 (100%)	17人 (6.3%)	221人 (81.9%)	32人 (11.8%)
国文科	47人 (100%)	4人 (8.5%)	30人 (63.8%)	13人 (27.7%)
英文科	45人 (100%)	5人 (11.1%)	32人 (71.1%)	8人 (17.8%)
合計	362人 (100%)	26人 (7.2%)	283人 (78.2%)	53人 (14.6%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
主な進学先：大妻女子大学				
主な就職先：全国農業協同組合連合会、株式会社フロンティア、ダイアナ株式会社、株式会社レバスト、日本通運株式会社				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
家政科	289人 (100%)	268人 (92.7%)	8人 (2.8%)	13人 (4.5%)	0人 (0.0%)
国文科	51人 (100%)	46人 (90.2%)	3人 (5.9%)	2人 (3.9%)	0人 (0.0%)
英文科	47人 (100%)	42人 (89.4%)	4人 (8.5%)	1人 (2.1%)	0人 (0.0%)
合計	387人 (100%)	356人 (92.0%)	15人 (3.9%)	16人 (4.1%)	0人 (0.0%)
(備考)					

### ⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>本学の授業計画(シラバス)には「単位数」や「授業形態・方法」等の基本事項以外に、「授業の概要、ねらい」「到達目標」「授業内容とスケジュール」「授業時間外の学習(予習・復習等)」「成績評価の方法及び基準」「教科書・参考書」「質問等の受付」を記載項目としている。</p> <p>記載内容については作成依頼時に各授業担当者へ作成時の留意事項等を配付し、例えば「到達目標」の項目については、「この科目を履修し、学修目的を達成できた結果、学生がどのような知識・能力などを修得できるのか(何ができるようになるのか)、学生が主体となる文章で記載してください。」と学生が理解しやすい具体的な記載にするよう指示している。</p> <p>作成は、例年前年度の11月に大学から授業担当者へ作成依頼し、1月上旬を作成期限としている。その後チェックを経て、学生の新年度履修登録が行われる前の3月下旬にWeb上で公開している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>短期大学部全体・学科単位で「卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」を定め、ホームページ等で公表しており、例えば短期大学部全体単位では以下のように定めている。</p> <p>「大妻女子大学短期大学部では、以下の要件や能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、卒業を認定し、短期大学士の学位を授与します。</p> <p>1. 人間生活全般、日本文化そして英米を中心とした世界の文化に関して幅広い高度な知識を身につけている。</p> <p>2. 常に問題意識を持って自らテーマを見つけ、社会人・家庭人としての確に判断し問題解決を図ることができる思考力を備えている。</p> <p>3. 大妻で育まれた精神、すなわち周囲の人たちの意見に素直に耳を傾けると同時に、自分の意見を意欲的に主張できる関係的自立を備えている。</p> <p>4. 資格取得に必要とされる学力、諸資格試験等においてすぐれた成績を修めうる技能を身につけている。」</p> <p>「卒業の認定に関する方針」に定められた能力等を育成するために必要な教育の方針として「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」を定め、それに基づき開講している各授業科目を学生が履修、単位修得することで、「卒業の認定に関する方針」に定めた能力等を修得できる教育体制を構築している。</p> <p>また、卒業の要件は学科・専攻毎に定められ、学生に配付するとともに Web 上でも公開されている「履修ガイド」に掲載している。卒業要件として定められている修得単位数は、その合計のみならず、専門科目・全学共通科目（教養系科目）別、さらには学修分野別に要件を定め、「卒業の認定に関する方針」に定めた能力修得を適切に行える教育課程を編成している。</p> <p>卒業判定は、学科・専攻毎に定められた卒業要件に基づき、教務委員会、教授会で慎重に審議し、適切に判定される体制を整えている。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
短期大学部	家政科	家政専攻 64 単位 生活総合ビジネス専攻 64 単位 食物栄養専攻 73 単位	有・無	42 単位 (家政専攻 1 年次)
	国文科	66 単位	有・無	44 単位 (1 年次)
	英文科	63 単位	有・無	43 単位 (1 年次)
GPAの活用状況 (任意記載事項)		GPAが優良な学生に対する規定の履修登録上限単位数基準の緩和、成績不振の学生に対しての指導の基準として活用している。 公表方法： <a href="http://www.otsuma.ac.jp/pdf/academics/guide/subjectguide/junior-2019.pdf">http://www.otsuma.ac.jp/pdf/academics/guide/subjectguide/junior-2019.pdf</a> (履修ガイド p. 65)		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		在学生の週あたりの予習・復習時間をHPにて公表している。 公表方法： <a href="http://www.otsuma.ac.jp/academics/guide/studytime">http://www.otsuma.ac.jp/academics/guide/studytime</a>		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

<p>公表方法：<a href="http://www.otsuma.ac.jp/about/facilities/chiyodacampus">http://www.otsuma.ac.jp/about/facilities/chiyodacampus</a> <a href="http://www.otsuma.ac.jp/access/chiyoda">http://www.otsuma.ac.jp/access/chiyoda</a></p>
---

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	学年	授業料	入学金	その他	備考
			(年間)			
短期大 学部	家政科家政専攻	1	725,000円	250,000円	422,500円	教育充実費・保健費
		2	735,000円	-	432,500円	教育充実費・保健費
	家政科生活総合 ビジネス専攻	1	715,000円	250,000円	412,500円	教育充実費・保健費
		2	725,000円	-	422,500円	教育充実費・保健費
	家政科食物栄養 専攻	1	725,000円	250,000円	450,500円	教育充実費・保健費・専攻費
		2	735,000円	-	460,500円	教育充実費・保健費・専攻費
	国文科	1	695,000円	250,000円	412,500円	教育充実費・保健費
		2	705,000円	-	422,500円	教育充実費・保健費
	英文科	1	695,000円	250,000円	412,500円	教育充実費・保健費
		2	705,000円	-	422,500円	教育充実費・保健費

(2019年度実績)

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 本学では、経済面での不安を少しでも解消し、安心して勉学に励むことができるよう、「大妻女子大学育英奨学金」・「学校法人大妻学院特別育英奨学金」等、独自の奨学金制度を設けています。また、不慮の災害に見舞われた学生に対し、学生納付金の減免制度を設けています。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 就職支援センターでは、進路に関するキャリア相談や就職活動に関するアドバイス、インターンシップや求人情報などの紹介を行っています。短大1年生から「進路総合ガイダンス」や「就職基礎講座」など、進学から内定までのサポートをきめ細かく行っています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 各キャンパスに健康センターと学生相談センターを設置しています。 健康センターは、学生の健康保持・増進および病気の早期発見に努めています。 学生相談センターは、相談室と談話室で構成され、専門のカウンセラーが学生の相談に応じており、充実した学生生活と人間的な成長促進を援助しています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<http://www.otsuma.ac.jp/about/basic/education>